

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	03	0402	温泉地域観光振興事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》
温泉地域の誘客促進

《事業開始の背景》
温泉郷のイメージアップとサービス向上に係る事業費支援を通じ、観光誘客において経済効果が大きい宿泊滞在者の拡大を図る。

《事業概要》
○花巻温泉郷への誘客支援
花巻温泉郷観光推進協議会に対する支援
共同送迎バス運行事業費に対する支援→花台協議会
→花巻南温泉事業組合

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

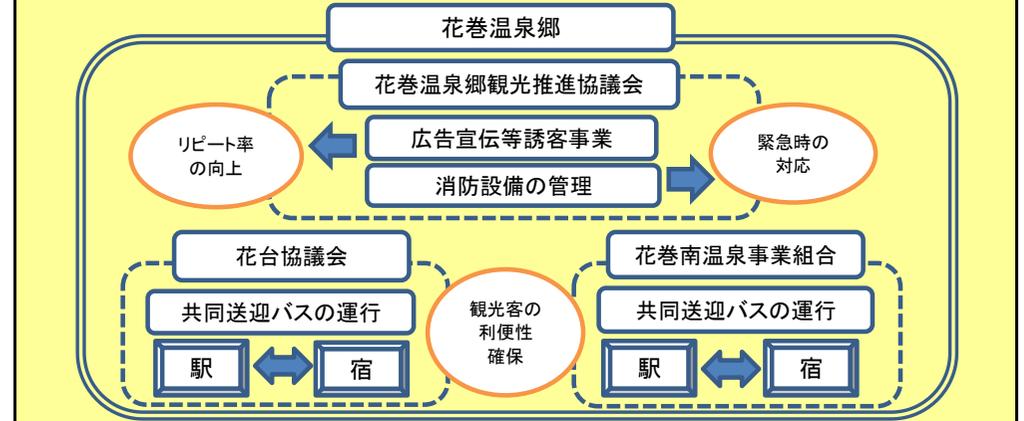
《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 宿泊施設入込数(日帰り含む)	人	目標	900,000	900,000	
		実績	997,871	1,116,052	
② 花巻温泉郷共同バス利用者数	人	目標	40,000	40,000	
		実績	47,358	50,017	
③	人	目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
しごと	商工観光部	観光課	佐藤 恒	287

	24年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
事業費	10,500				
財源内訳	国県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	10,500			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること



温泉地域観光振興事業補助金 10,500千円

①花巻温泉郷観光推進協議会が実施する誘客事業 1,200千円
誘客事業(宣伝広告、温泉めぐりチケットの発行)、消防設備管理費
事業費 2,400千円(会費等1,200千円、補助金1,200千円)

②共同送迎バスの運行 9,300千円

区分	花台協議会			花巻南温泉事業組合		
	H24	H25	備考	H24	H25	備考
事業費	6,325	6,326	委託運行(委託先保有車両)	7,901	12,571	直営運行(組合保有車両) ※2台(H24に1台増車)
会費	3,164	3,226		4,000	6,371	
補助金	3,160	3,100		3,900	6,200	
財源	その他	1		1		
	迎え	3便	3便	2便	3便	
	送り	2便	2便	1便	2便	
運行便数	計	5便	5便	3便	5便	

※H25事業費は決算見込み

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	03	0402	温泉地域観光振興事業

総合計画	政策	交流・移住人口増加で訪れたい・住みたいまちづくり	施策	まちぐるみ観光サービスの産業化
	2		2-1	
目的	温泉地域の誘客促進			
対象	観光客			
意図	観光客の満足度の向上			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○花巻温泉郷への誘客支援
花巻温泉郷観光推進協議会に対する支援
共同送迎バス運行事業費に対する支援→花台協議会
→花巻南温泉事業組合

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定
 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 会議開催回数 (花巻温泉郷観光推進協議会)	回	計画	3	3	
		実績	3	3	
② 花巻温泉郷共同バス運行回数	回	計画	2,920	2,920	
		実績	2,920	3,650	
③	回	計画			
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 宿泊施設入込数 (日帰り含む)	人	目標	900,000	900,000	
		実績	997,871	1,116,052	
② 花巻温泉郷共同バス利用者数	人	目標	40,000	40,000	
		実績	47,358	50,017	
③	人	目標			
		実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

宿泊施設入込数は目標値を下回ったものの、前年実績を上回っており、震災の影響は薄れたものと思われる。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

特になし

目的妥当性	<p>公共関与の妥当性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	<p>・観光客の増加は交流人口の拡大に直結することから、必要な取り組みに対する相当の支援は妥当である。</p>
有効性	<p>成果の向上余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	<p>・温泉従業員のおもてなしの向上がリピーターを呼び、観光客の増加につながる。</p>
効率性	<p>事業費・人件費の削減余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	<p>・送迎バス運行の方法、及び経費の見直しにより補助金を削減する余地はある。</p>
公平性	<p>受益と負担の適正化余地</p> <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	<p>・共同送迎バスは、温泉を利用するすべての方が利用できる。</p>

《総合評価》…上記評価結果の総括

新幹線を利用して来花する観光客にとって、新花巻駅から温泉地への距離は大きな負担であり、送迎バスの存在は観光客入込数の維持、増加の一役を担っている。今後の課題としては、人口減少の対策として宿泊客のリピーターを増やす必要があり、温泉従業員のスキルアップにより、さらなるおもてなしの向上を図らなければならない。